

病気の治療法や薬は、時代とともに変化してきて、時代とともに変わってきた。平成の30年間は、時代とともに変わってきた。令和時代の始分野で大きく進歩し、県内の医師に、医まりに当たって広島県ももらった。療の進化を振り返って

(冷木大介、衣川圭)

ピロリ菌

胃と胃がん



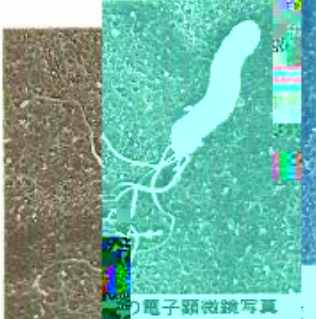
伊藤 公訓 教授 55歳

広島大病院消化器・代謝内科

余菌で予防できる病気

日本人のがんの中でずっとトップの患者数だった胃がんは、平成時代に予防のできる病気に変わりました。世界保健機関(WHO)が1994(平成6)年に、ピロリ菌が胃がんの原因と認定。ピロリ菌を抗生剤などでやっつけると、胃がんになる可能性が格段に低くなるのです。ピロリ菌は5歳くらいまでに感染。胃の粘膜にすみ着いて慢性胃炎を引き起こします。進行するとがんになります。戦後は、井戸水からの感染が中心でした。

衛生状況がよくなった現在は、若者の感染率が下がっています。大学生で6%ほど。今、多いのは赤ちゃんへの食べ物の



電子顕微鏡写真

ピロリ菌は、感染期間が短いほど胃への影響が少なく、早めの除菌を勧められています。2013年からは慢性胃炎の人の除菌が保険適用になりました。佐賀県では中学校での検尿で陽性者を拾い上げ、除菌しています。薬の副作用を懸念する意見もありますが、がん予防の効果は大きいと思います。一つのがん細胞が胃がんになるまで多くの場合10〜20年。令和時代には、いよいよ除菌の成果も表れ、胃がんの発症者は劇的に減ってくるのではないでしょう。

口移しなどを介した感染と考えられています。